『椙大国際コミュニケーション学部研究論集――言語と表現――』第四号刊行に寄せて

『椙大国際コミュニケーション学部研究論集――言語と表現――』第四号が刊行されることとなった。今回は、〈旅〉に関わる論稿を三編、掲載した。この三編は、学部行事として今年度の六月十七日に開催された「国際文化フォーラム」（第一回）への報告原稿である。

学部行事「国際文化フォーラム」について少し記しておきたい。

国際コミュニケーション学部は開設四年目、学部造りの過程において、正課以外にも、学部主催講演会の開催（年三～四回）や、『言語と表現』（学生版）の刊行（年一回）など、学部理念の実現への寄与が期待できるさまざまな企画を準備してきた。その一環として今年度より、新入生が大学に馴染み始める六月に学部行事として「国際文化フォーラム」を開催することに決めた。今年度のフォーラム（第一回）は六月十七日に、共通テーマ〈旅〉のもとで、本学部の教員三名による報告をベースに、司会者をまじえたシンポジウムの形式で開催された。報告を担当した教員三名は、近世日本文学、古代日本文学、地理学と、それぞれ専門領域を異にする研究者であるが、通常の学会ではあまり見られないこうした研究者の組み合わせも、さまざまな文化的背景をもった人びとが出会う場を開拓し、その場を深く耕し、維持してゆく力、すなわちコミュニケーション能力の育成を教育理念とする本学部としては、きわめて自然なことであるし、学部行事としてむしろふさわしいものであったと考えている。というのは、専門領域を異にするとはいえいずれも本学部の教員として十分な資質を備えた研究者三名にとって、一同に会し共通の場を形成することは困難なことではないし、こうして開かれた場に本学部の学生を親しませることで、学部の教育理念の一層の達成が期待できるからである。

フォーラムの開催は授業のない土曜日の午後という時間帯であったが、多くの在学生と学部教員、他に学

生の御父母の参加もあり、成功裡に終わった。新入生にとって今回のフォーラムは、学部全体の知の環境への関心をさらに深めてゆくよい機会になったと思うし、すでに専門科目の学修を進めている上級生の中には、フォーラムに参加して、近い将来の卒業論文執筆にあたって参考とすべきさまざまな事項に気付いた者もいたことであろう。少数ではあったがフォーラムに参加した御父母の方々には、わが子が学ぶ学部教育の一端を実際に体験して、学部教育の態勢に満足、あるいは安心していただけたのではないだろうか。報告を担当した三名の教員はもとより、他のフォーラムに参加した本学部の教員にとっても、相互理解を深めるうえで意義深い行事であった。

今後もひきつづき年毎に「国際文化フォーラム」を開催し、その際の報告をこの学部論集に掲載してゆく予定である。こうして、国際コミュニケーション学部をさらに発展させてゆきたいと考えている。

二〇〇七年三月二〇日

国際コミュニケーション学部　学部長　北　岡　崇